

根底にあるのは、人間への深い愛

Nagoya City University Medical School

名古屋市立大学 医学部



〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 TEL.052-853-8545 (医療人育成課)
医学部・医学研究科オリジナルウェブサイト <https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/>
名古屋市立大学ウェブサイト <https://www.nagoya-cu.ac.jp>

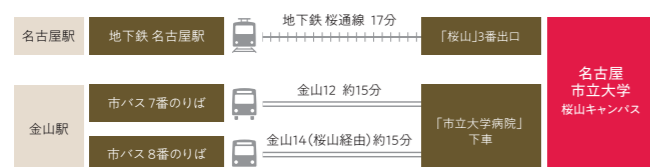
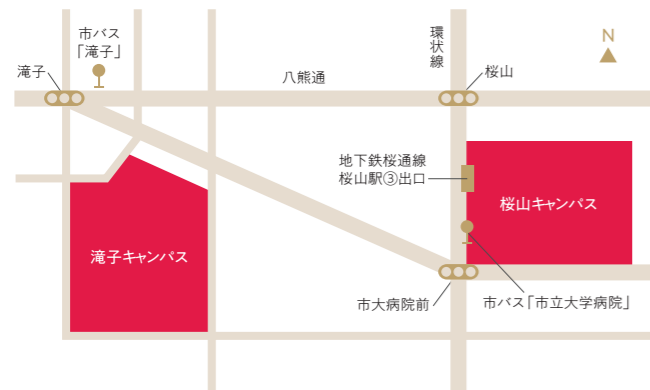


募集要項の請求はこちら

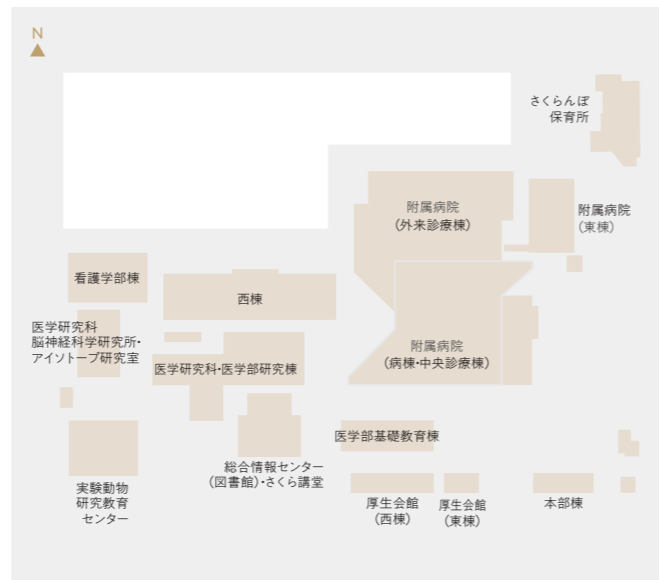
 テレメール <http://telemail.jp> ※その他希望する資料の請求が可能です。

テレメール

交通アクセス



キャンパスMAP



発行:2023年7月



名古屋市立大学医学部
オリジナルウェブサイト

深い医学知識と技術を通じた人類への貢献

Nagoya City University Medical School

MESSAGE

名古屋市立大学医学部は、1943年に開校してからこれまでに約5,200名の卒業生を輩出してきました。多くの諸先輩は、患者さんに寄り添う地域医療を大切にされ、それが名市大医学部のモットーとなっています。令和3年4月に名古屋市立東部・西部医療センターの2病院、令和5年4月にみどり市民病院（旧名古屋市立緑市民病院）、みらい光生病院（旧名古屋市厚生院附属病院）の2病院が医学部附属病院に加わったことで、全国医学部の中でも最大規模の附属病院群を擁することになりました。各病院の特徴・専門性を生かして連携体制を強化し、地域医療に貢献しています。

医学部に入学すると最初の1年は教養教育、2～3年目に解剖学、生理学などの基礎医学を学び、さらに病理学、細菌学などの基礎臨床医学へと進みます。4年目に臨床医学を学び、5～6年目に病院において臨床実習を受けます。その間、学生の多くは多種多様なスポーツや文化活動を満喫し、基礎医学講座に所属して最先端の医学研究に従事する特別プログラム（MD-PhDコース）や、登山者の治療にあたる蝶ヶ岳ボランティア診療班、基本的な救命処置を学ぶ救命救急サークルなどの課外活動に参加することもできます。6年間の学生生活の中で様々な情報に触れ、体験を積むことが将来の道を決めるのに役立つと思います。

名市大医学部は学生と教員の距離が近いことで知られており、様々な相談に対して親身になって応じてくれます。私ども医学部の教員は、皆さんが目指す医師像を実現するために最大限のお手伝いをいたします。医師になる強い信念を持った皆さんのご入学をお待ちしております。

名古屋市立大学 医学部長 高橋 智



CONTENTS

- 2 医学部長挨拶
- 3 名市大の魅力
- 5 特徴的なカリキュラム
- 6 BRJ活動
- 7 入学試験案内
- 9 学科案内
- 11 データ
- 13 学生からのメッセージ
- 17 卒業後の医師臨床研修について
- 19 教員/卒業生からのメッセージ
- 21 研究者への道/MD-PhDコース
- 23 研究内容紹介
- 25 クラブ・サークル
- 27 キャンパスカレンダー
- 29 留学案内
- 30 沿革

本校の伝統を象徴するハートマークは、心臓(ハート)を形どって人間の尊重を表現したものです。



名古屋市立大学の魅力

名古屋市立大学医学部附属病院

名古屋市立東部・西部医療センターが名市大の医学部附属病院となりました。



東部医療センター



西部医療センター



みらい光生病院



みどり市民病院

約2200床の病床を持つ、
国公立大学で
全国最大規模の
大学病院群



名古屋市立大学病院

臨床実習協力病院

本学では、学生のうちから一般病院での臨床実習が可能です。



世界基準の医学教育を推進

ACCREDITED
2020.6-2027.5

名古屋市立大学医学部では、一般社団法人日本医学教育評価機構(JACME)による医学教育分野別評価を2019年10月に受審し、教育プログラムが国際基準に適合していることが認定されました。

本学の優れた点は、Scientific Writing and Presentation、MD-PhDコース、疼痛科学、コミュニティ・ヘルスケアプログラムと東部・西部医療センターの附属病院としての活用と評価されました。

医学部では、機構の評価報告書を踏まえ、引き続きプログラムの改良に取り組み、教育の質向上を目指します。

* 認定期間は、2020年6月1日～2027年5月31日です。



学生サポート

本学医学部では、教員と学生との距離が近いとよく言われています。その理由として、教員一人当たりの学生数が約2名と少ないこと、人材育成に熱心な教員が多いことが挙げられます。また、

- M1、M2: 学生5名程度でグループを作成し、グループごとに1名の基礎系教員を割り振る連絡担当教員制度
- M4・1月(臨床実習開始)～M6・9月(臨床実習終了): “臨床実習の相談役”として学生1～2名につき1名の臨床系教員を割り振るメンター制度など、学生のサポートをする体制を整えております。

さらに、教員と学生間だけでなく、上級生・下級生の学生同士のつながりも強いです。

オリター制度について

本学では、入学式から1週間ほど新入生歓迎会期間があります。この期間中に新入生は、授業の準備や合宿、歓迎パーティなどを通して同級生との絆を深め、大学生活に慣れていきます。このとき、誘導やレクリエーションの企画を通じて新入生の手伝いをする先輩が「オリター」です。オリター制度は、先輩・後輩の関係を深めるきっかけにもなっており、数十年続く伝統です。

学習スペース

厚生会館や基礎教育棟セミナー室、西棟3階研修室において自習が可能です。

また、6年生の夏～2月の国家試験終了までは、基礎教育棟5階セミナー室や厚生会館セミナー室を勉強部屋として優先的に使用できます。

国家試験合格率

	新卒			既卒			全体			全国平均
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第113回(令和元年2月実施)	98	91	92.9%	6	4	66.7%	104	95	91.3%	89.0%
第114回(令和2年2月実施)	92	90	97.8%	8	6	75.0%	100	96	96.0%	92.1%
第115回(令和3年2月実施)	102	101	99.0%	3	1	33.3%	105	102	97.1%	91.4%
第116回(令和4年2月実施)	99	98	99.0%	3	0	0.0%	102	98	96.1%	91.7%
第117回(令和5年2月実施)	81	79	97.5%	3	2	66.7%	84	81	96.4%	91.6%

医療系学部連携チームによる地域参加型学習



コミュニティケア卒前教育プログラム「医薬看連携地域参加型学習」は、本学の医学・薬学・看護学の医療系3学部の1年生を対象としたカリキュラムとして、平成21年にスタートしました。

医療系3学部で行う本プログラムは、全国の公立大学で唯一医学・薬学・看護学の3学部が揃う本学の特徴と言えます。

本カリキュラムの学習目標は、

- ①大学生の初年次導入教育としての課題解決型学習能力の習得
- ②将来のチーム医療の基礎となるチームワーク能力の獲得
- ③医療人を目指す学生としてのプロフェッショナリズムの基盤形成となっており、この目標に向かって、毎年3学部の1学年約240名が27チームに分かれ、基本医療技能実習、医療体験学習を行った後、医療保健福祉施設、学校、学区連絡協議会、地域振興会などの地域コミュニティ機関、山間・離島などを担当し、地域や施設のニーズの発見と「学生だからこそできる」課題の解決に取り組んでいます。

学生は1年間の活動を通して、医療人を目指す者としての役割や目標について考え、早期からチーム医療を体験するという貴重な経験から多くを学ぶことができるでしょう。



今救えない患者を救うために～MD-PhDコース～

本学医学部は「人類の未来に貢献する医学研究を行い、その成果を社会に還元する。」との理念にある通り、優れた若手医学研究者の育成に力を注いでいます。

本学には、医学研究を志向する医学部学生に対し、早期に研究の機会を与えることによって、医学・医療の急速な進歩と社会情勢の変化に対応できる若手医学研究者を養成することを目的として、平成20(2008)年度に「MD-PhDコース」が設立されました。



通常カリキュラムを超えた教育活動

医師となる自分自身のために～自らがより深く学ぶ～

名古屋市には医学生が自ら学ぶ活動が多くあります。医療系の他学部とともに救急医療を学ぶ学生サークル「救急救命サークルMeLSC」や、仲間とともに登山者のボランティア診療を行う「蝶ヶ岳ボランティア診療班」、また、診療補助として大学病院の救急現場に身を置きリアルな医療を体験する「ドクターエイド制度」などがそれにあたります。そうした活動の一つに、通常のカリキュラムの枠を超えて医師としての実践的なスキルを身につけることを目指す「Beyond the Resident Project(BRJ)」活動があります。

BRJはより深く実践的に医療を学びたいという学生の声がかきかけとなり、教員と協力の元、学生自身が学びの場を創り運営しています。参加する学生には、積極性と主体性を持って「自らが学ぶ」姿勢と、学んだ内容を「次世代に引き継ぐ」ことが求められます。日頃の授業や実習に加え、さらにこうした活動に参加することが可能なのかと感じられるかもしれませんが、毎年多くの学生が自らの意思で活動に参加しています。

低学年生は医師となる自らの夢や想いをそのままに、臨床医から「医療とは何か」「医師の仕事とは何か」を学びます。高学年では「医師となった自分」を意識し、医師となった後の実践で役立つ診療技術を学び、高めていきます。また僻地医療研修や当直体験といった通常カリキュラムを超えたアドバンスな活動への参加を通して、医師と勤務する自分をイメージしながら自らの到達点を見極め、更なる成長の必要性を感じていきます。

BRJ活動を通して学生たちは将来医師となる自分自身をみつめ、思いを同じくする仲間や情熱ある指導医と共に過ごす濃厚な時間の中から、「医師としてのプロフェッショナルとは何か」と自らに問いかけ成長していきます。そして、医師となるためには知識や技能だけでなく医師としての「心」を身につける必要があること、そして医学部での6年間が学びのゴールではなくさらに成長するためのスタートであることに自ら気づき、卒業後の医師としてのステージで大きく飛躍していきます。(右のロゴマークは学生達が作成しました。右上がりの「BRJ」には「現状に満足せずとどんどん成長していこう」という思いが込められています。)



Voice

■ 学生の声



入学してから半年ほど経過したときに、BRJのことを知り参加しました。BRJは学生が主体性、積極性を持って学ぶ活動で、臨床を本格的に学習する前から臨床教育に触れることができます。1年次では胸部単純X線読影を通して臨床と解剖の繋がりが肺炎や肺癌といった基本的な疾患の概念を学びました。2年次の現在は心電図を学んでいます。BRJでの参加は単に知識の学びだけでなく、自分が将来医師となるイメージを描いたり日頃の勉強のモチベーションを高めたりすることにもつながっていると感じています。

医学部2年 古幡 保之



BRJ活動は、私たち学生の学びたいという熱意に教員の先生方をはじめ職員の方々が一丸となって応えてくださり成り立っている活動です。5年次では医師となった後に必要となるスキルや心構えを学びます。スキルとしては、心電図や胸部単純エックス線の読影、身体診察、腹部超音波などを実践的なレベルで繰り返しトレーニングしています。臨床実習の後で集まっただけの学習になりますが、医師になった後も学び続ける姿勢につながると感じています。また、救急外来を想定した臨床推論のトレーニングでは、推論過程だけではなく医療者に必要なコミュニケーション、患者さんへの配慮、価値観の多様性などについてもディスカッションし、プロフェッショナルな医師となるための心構えについても学んでいます。こうした学びは先輩から引き継がれ、自分達も後輩に伝えていきます。良い医療者になりたいという熱意のある学生の参加を歓迎します。

医学部6年 業天 一生

■ 名古屋市立大学医学部には、一般選抜と2つの学校推薦型選抜があります

一般選抜 (前期日程)	学校推薦型選抜 (中部圏活躍型・名古屋市高大接続型)	地域枠学校推薦型選抜
----------------	-------------------------------	------------

■ 試験日・試験科目・募集人員等

※詳しくは募集要項をご確認ください。

試験区分		試験日	試験科目	募集人員	備考
一般入試	前期日程	2月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ●大学入学共通テスト ●個別学力検査 ●面接試験 	60名	——
	学校推薦型選抜				
学校推薦型選抜	中部圏活躍型	2月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ●大学入学共通テスト ●総合面接試験 (各教科の知識を問う課題論述及び口述を含む。) 	27名	合格者が募集人員に満たなかった場合は一般選抜で補充します。
	名古屋市高大接続型		<ul style="list-style-type: none"> ●大学入学共通テスト ●総合面接試験 (各教科の知識を問う課題論述及び口述を含む。) 	3名	合格者が募集人員に満たなかった場合は中部圏躍進型で補充します。
	地域枠		<ul style="list-style-type: none"> ●大学入学共通テスト ●面接試験 	7名	——

配点	●一般選抜:大学入学共通テスト					
	国語 125点	数学 125点	外国語 125点	地理歴史・公民 75点	理科 100点	合計 550点
	●一般選抜:個別学力検査等					
	数学 300点	外国語 300点	理科 400点	面接 200点	合計 1200点	
	●学校推薦型選抜(中部圏活躍型・名古屋市高大接続型):大学入学共通テスト					
	国語 125点	数学 150点	外国語 125点	地理歴史・公民 75点	理科 150点	合計 625点
●地域枠学校推薦型選抜:大学入学共通テスト						
国語 200点	数学 250点	外国語 200点	地理歴史・公民 100点	理科 250点	合計 1000点	

■ 過去の入学試験結果

年度	日程	入学定員	志願者数	合格者(含追加合格者)
令和5年度	前期日程	60	198	60
	学校推薦型選抜(中部圏活躍型)	27	85	27
	学校推薦型選抜(名古屋市高大接続型)	3	5	3
	地域枠学校推薦型選抜	7	25	7
令和4年度	前期日程	60	164	62
	学校推薦型選抜(中部圏活躍型)	27	63	25
	学校推薦型選抜(名古屋市高大接続型)	3	5	3
	地域枠学校推薦型選抜	7	20	7
令和3年度	前期日程	60	208	60
	学校推薦型選抜(中部圏活躍型)	27	49	27
	学校推薦型選抜(名古屋市高大接続型)	3	5	3
	地域枠学校推薦型選抜	7	22	7

Q & A

Q. 最新の入試情報はどこで手に入りますか?

A. 入試情報については、名古屋市立大学ホームページ (<https://www.nagoya-cu.ac.jp/admissions/index.html>) を確認してください。



■ アドミッション・ポリシー



医学は生命科学、心理学、社会科学、倫理学を基盤とする応用科学である。医師には、病気の原因や病態を科学的に解明し、診断法や治療法を開発する科学者としての役割、病気を治し、病人の苦痛を和らげ心身を癒す治療者としての役割、そして人々の健康を維持・増進し、人類の未来と幸福を守る社会的役割が求められる。これらの役割を果たすには、医療のプロフェッショナルとしての高度な医学知識と臨床能力、的確かつ柔軟なコミュニケーション能力、強い倫理感に基づく判断力の基盤の上に、卓越した学識と創造性豊かで高潔な人間性、そして他者の利益のために人生を捧げる献身性が必要である。さらに、今日、医療・保健活動や医学研究は、国際的な連携のもとで実施されることが多く、国際的な視野と感性も重要である。名古屋市立大学医学部では、このような医師、医学研究者を目指す強い意志をもった人を探し、一般選抜、学校推薦型選抜、地域枠学校推薦型選抜の4つの入学試験を施行している。それぞれの入学試験において求める学生は以下の資質、素養を有する者である。

■ 求める学生像

一般選抜	学校推薦型選抜(中部圏活躍型)	地域枠学校推薦型選抜
<p>医学・医療への使命感と倫理観、幅広い知識と向学心を持ち、他の医療従事者と協調してリーダーシップを発揮し、患者中心の医療ができる国際的視野をもった学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●医学・医療への使命感と倫理観をもった人 ●幅広い科目の学力と向学心を備えている人 ●温かで信頼され、協調性をもってリーダーシップを発揮できる人 ●国際的な視野を持ち、医学・医療の発展に気概ある人 	<p>医学・医療への使命感と倫理観、創造性豊かな探求心と幅広い知識・向学心を持ち、リーダーシップを発揮し指導的な立場で活躍し、国際的な舞台で医学・医療の発展に貢献できる学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●医学・医療への強い使命感と高い倫理観をもった人 ●創造性豊かな探求心と幅広い知識への向学心を備えている人 ●協調性をもって優れたリーダーシップを発揮し、指導的な立場で本学の発展に貢献できる人 ●国際的な舞台で医学・医療の発展に貢献できる人 	<p>医学・医療への使命感と倫理観、社会や文化に関する幅広い知識と向学心を持ち、人間性豊かな温かさでリーダーシップを発揮し、地域社会に貢献する意欲をもった学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●医学・医療への強い使命感と高い倫理観をもった人 ●自然科学とともに社会や文化に関する幅広い基礎学力と向学心を備えている人 ●温かで協調性を持ち、「学び続ける医療人」としてリーダーシップを発揮できる人 ●愛知県の地域医療に貢献する強い意志を持ち、着実な活躍ができる人
学校推薦型選抜(名古屋市高大接続型)		
<p>医学・医療への使命感と倫理観、幅広い知識・向学心を持ち、リーダーシップを発揮し指導的な立場で活躍し、名古屋都市圏における患者中心の医療ができる国際的視野をもった意欲のある学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●医学・医療への強い使命感と高い倫理観をもった人 ●創造性豊かな探求心と幅広い知識への向学心を備えている人 ●協調性をもって優れたリーダーシップを発揮し、名古屋都市圏の医療の発展に貢献できる人 ●国際的な視野を持ち、医学・医療の発展に気概ある人 		

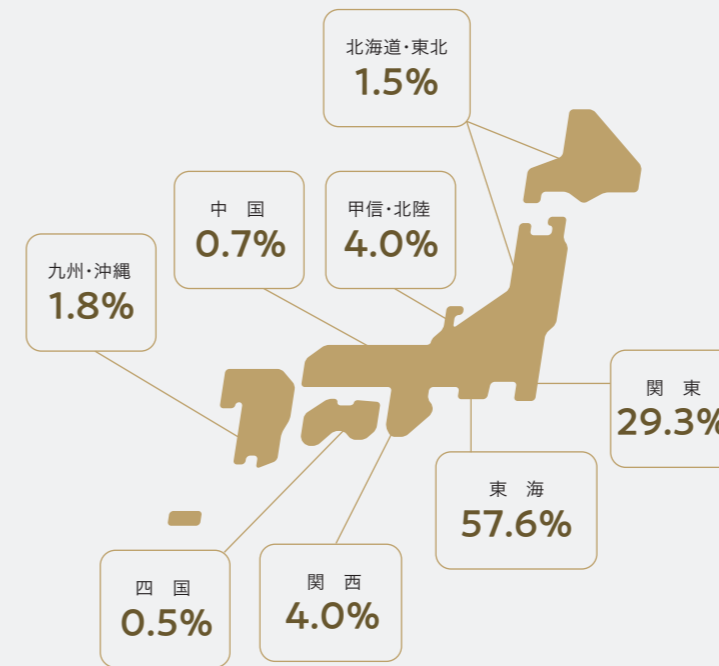
■ 修得しておくべき知識等の内容・水準

- 基礎医学を学習する上での基盤となる理科、数学、語学の基礎学力
- 文章の読解、考えの口頭および文章での表現、円滑なコミュニケーションのための十分な国語力と英語力
- 人間理解の基盤となる社会、経済、文化、芸術、思想など多様な領域に対する向学心と素養
- 自ら学習課題を見出し解決できる意欲と行動力

■ 初期臨床研修先

令和4年度		令和3年度		令和2年度	
名古屋市立大学病院	9	名古屋市立大学病院	8	名古屋市立大学病院	16
医学部附属東部医療センター	7	医学部附属東部医療センター	6	東部医療センター	6
医学部附属西部医療センター	3	医学部附属西部医療センター	5	西部医療センター	2
豊川市民病院	7	豊川市民病院	6	豊川市民病院	8
蒲郡市民病院	1	蒲郡市民病院	1	蒲郡市民病院	1
一宮市立市民病院	3	一宮市立市民病院	5	一宮市立市民病院	3
海南病院	3	海南病院	3	海南病院	5
刈谷豊田総合病院	3	刈谷豊田総合病院	3	刈谷豊田総合病院	4
その他名古屋市内	13	その他名古屋市内	10	その他名古屋市内	5
その他愛知県	15	その他愛知県	29	その他愛知県	22
岐阜県	2	岐阜県	4	岐阜県	8
三重県	0	三重県	2	三重県	4
静岡県	0	静岡県	1	静岡県	2
東京都	2	東京都	0	東京都	6
その他	13	その他	16	その他	10
42施設	81名	48施設	99名	47施設	102名

■ 出身地(出身高校所在地別)



地域	学生数	割合
東海	348	57.6%
北海道・東北	9	1.5%
関東	177	29.3%
甲信・北陸	24	4.0%
関西	24	4.0%
中国	4	0.7%
四国	3	0.5%
九州・沖縄	11	1.8%
その他	4	0.7%
計	604	

※令和5年4月現在

■ 学生定員・学生数

● 学生定員

平成21年度～ …… 92名 平成22年度～ …… 95名 平成27年度～ …… 97名

● 学生数 ※令和5年1月現在

1年生 …… 104名 2年生 …… 102名 3年生 …… 100名 4年生 …… 90名 5年生 …… 98名 6年生 …… 113名
合計 …… 607名

■ 卒業生数

平成26年度卒業生数 …… 87名 平成27年度卒業生数 …… 72名 平成28年度卒業生数 …… 110名
平成29年度卒業生数 …… 93名 平成30年度卒業生数 …… 98名 平成31(令和元)年度卒業生数 …… 92名
令和2年度卒業生数 …… 102名 令和3年度卒業生数 …… 99名 令和4年度卒業生数 …… 81名
累計 …… 4,875名 旧制 …… 128名

※令和5年4月現在

医学部同窓会(瑞友会) <https://zuiyukai.com/>

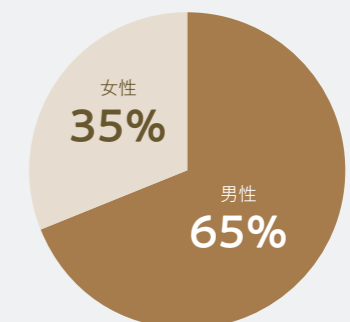
■ 国家試験合格率

	新卒			既卒			全体	全国平均
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率		
第113回(令和元年2月実施)	98	91	92.9%	6	4	66.7%	91.3%	89.0%
第114回(令和2年2月実施)	92	90	97.8%	8	6	75.0%	96.0%	92.1%
第115回(令和3年2月実施)	102	101	99.0%	3	1	33.3%	97.1%	92.1%
第116回(令和4年2月実施)	99	98	99.0%	3	0	0.0%	96.1%	91.7%
第117回(令和5年2月実施)	81	79	97.5%	3	2	66.7%	96.4	91.6%

■ 男女比

※令和5年4月現在

	男性	女性	計	男性割合	女性割合
1年生	66名	38名	104名	63.5%	36.5%
2年生	66名	36名	102名	64.7%	35.3%
3年生	64名	36名	100名	64.0%	36.0%
4年生	56名	34名	90名	62.2%	37.8%
5年生	62名	36名	98名	63.3%	36.7%
6年生	81名	32名	113名	71.7%	28.3%
計	395名	212名	607名	65.1%	34.9%





かけがえない人々を助け、
自分自身の人生も豊かにすることができるよう、
努力を怠らず、前進していきたいです。

01 榊原 悠紀菜さん

2年生になると教養科目を学ぶ滝子キャンパスから専門科目を学ぶ桜山キャンパスに移り、医学生としての道を歩み始めます。2年生では分子レベルから器官レベルまで幅広い視野で人体の正常な機能と構造について学習を進めます。疾患や怪我の原因を特定し、あるべき状態に回復させるためにはその基準として正常状態を把握しておく必要がありますので、将来の土台となる大切な学びであると理解しています。具体的には生理学、生化学、解剖学などがあります。また実習を行う科目もあり、中でも解剖実習では大学に献体されたご遺体を解剖させていただいています。医学を修める身としての責任と使命感を改めて自覚するとともに、命の深淵に触れさせていただいていることを肌で感じています。

2年生になってからの日々はより一層刺激的で新しく、「そうだったんだ!」と思わず口にしてしまうような感動と不思議でいっぱいです。高学年に上がるにつれて基礎医学から臨床へとフィールドが広がり膨大な知識量を必要とされるようになりますが、何事も最初に出会った時のシンプルな驚きと喜びを忘れずにいたいと考えています。私は学部生のうちから本格的な研究をさせていただけるMD-PhDコースに所属しており、自分の腕を



磨けるよう日々努力できるこの環境に本当に感謝しています。かけがえない人々を助くために、そして自分自身の人生も豊かにすることができるよう、この先も努力を怠らず前進していきたいです。



学んだ知識を土台とし、
未知な事象を解明しようとする姿勢。
そんな「学ぶ姿勢」を大切にしています。

02 田口 湧也さん

3年生では、基礎医学の続に加え、臨床に直結する内容を学習します。具体的には、病気になった患者の身体に生じる変化を学ぶ病理学、薬物の作用を学ぶ薬理学などがあります。人体の異常な状態を理解するためには、当然ながら正常な状態をしっかり把握していないといけません。ですので、2年生で学習した知識が土台となり、かつ大切になってきます。また、9月から3カ月間にわたり研究室に配属され、実験や研究を行います。医学にはまだまだ分かっていないことがたくさんあり、医師になった後もたくさんのことを学び続ける必要があります。最先端の研究に触れるとともに、未知なことを解明しようとする姿勢を学べるでしょう。

学年が上がり学ぶ内容も多くかつ難しく、試験や実習が連続してあるため、正直大変です。しかし、皆それぞれ部活動やアルバイト、趣味など、自分のやりたいことで楽しみを見つけ、忙しい中でも充実した日々を過ごしています。特に3年生はほとんどの部活で幹部として、全体を指揮する立場となります。“自分たちでしっかり部活を引っ張らない”という責任と不安のある中、失敗を経験しつつも乗り越えて成功へ導こうとする。その中で責任・自覚・意欲など、部活で学べることには将来に通ずるものが



必ずあると思います。

これからも「学ぶ姿勢」を忘れずに、今の勉強、部活、自分の目標に向かって進んでいきます。



先生との出会いは、かけがえのない財産。
 そんな出会いを通して、
 理想の医師像が見つかりました。

03 大山 聡太さん

基礎医学の学習を一通り終えて4年生になったところで、「臨床医学」の講義や実習が始まります。病院の各診療科にあたる科目を学ぶこととなり、内科、外科、小児科や眼科のように、触れることになる専門領域も多く、疾患の原因や症状、診断法や治療法など、必要とされる知識もとても幅広いです。

そして、病院実習を行う資格を得るための試験があります。まず、実技試験としてOSCEです。学生同士互いに協力しあって、実際に体を動かしながら手技を学んでいます。そして、知識についてはCBT試験が行われます。

授業以外では、BRJという学生主体の学習活動に所属しており、心電図や胸部単純X線読影といったスキルを磨いています。BRJではスキルや知識以外でも大切なことを学んでいると思います。BRJの先生が仰っていたことが印象に残っています。「若いころに、ガイドラインにそった間違いではない診療であったが患者さんに不快な思いをさせてしまったことがある。ガイドラインを見ていたが患者さんをみていなかったからだ気づいた。この経験があったので、末期がんの患者さんが大好きな歌手のコンサートに行きたいと仰ったとき、ケアするスタッフを手配しコンサートに行くことを実現できた。コミュニケーションが大切な



はもちろんだが、それ以上に患者さんに向き合う姿勢こそが大事なのだ」と。

その言葉で僕の理想の医師像が決まりました。試験につまずいたり、勉強が大変だったりしますが、こういった出会いが僕にとって名古屋市大でのかけがえのない財産です。



実際の臨床現場での診療に
 参加することで、
 自身の目標がより一層明確になっていきます。

05 高木 豊大さん

5年生はStudent Doctorとして名古屋市立大学病院及び実習協力病院での臨床実習を行っています。4~6年生で行われる実習は、診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)と呼ばれ、診療や手技を見学するだけでなく学生も診療チームの一員として積極的に診療に参加し、患者さんの御協力と指導医の先生の御指導のもと診療業務を任せられます。例えば患者さんから直接話を聞き、現場の診療スタッフに報告する、今後の診療計画を指導医にプレゼンテーションするなど責任のある役割を担うこともあります。緊張感のある臨床現場での診療に参加することで、4年生までに学習した医学の知識が実際にどのように臨床現場で応用されているのかを確認し、そして机の上の勉強だけでは得られない診療技能や診療上・学習上の態度も学ぶことができます。自分に足りない知識・技術が数え切れないほどあることを実感するとともに、昨日出来なかったこと・わからなかったことが出来るようになる刺激の激しい日々を送っています。また、名古屋市大には学生の学ぼうとする意欲に快く応えてくださる先生方が多く、先生主催の勉強会やBRJ(Beyond the Resident Project)など主体的に学びを深められる環境が揃っています。当然、学年が上がるにつれて求められる知識・技術は増えてい



きますが、実際の臨床現場を目にする機会が増えることで自身の目標はより一層明確になっていきます。明確な目標とそのために必要な能力を身につける貪欲な姿勢を持ち、これからも学習を続けていきたいと思っています。

卒業後の医師臨床研修について

医学部を卒業、医師国家試験に合格し、医師免許を取得した後は、2年間の初期臨床研修、その後の専門医取得まで、研修期間が用意されています。名古屋市立大学病院では、卒業後も皆さんをバックアップし、必要な能力を身につけるための充実した臨床研修プログラムを用意しています。

初期臨床研修コースのご案内

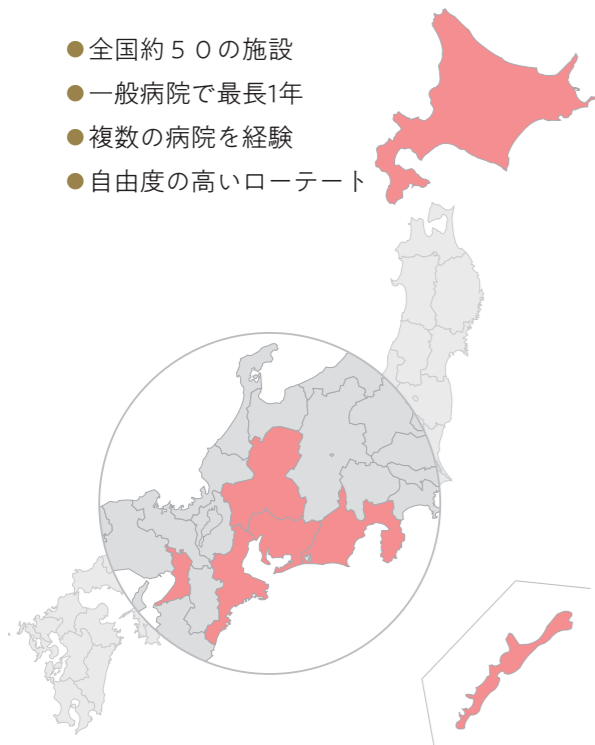
自分色を最大限引き出す自由と柔軟性、多彩な環境。私たちの研修コースは、以下の4つを基本としています。

大学2年コース 総合内科や救命救急センター、大学病院ならではの専門に特化した密度の高い研修	たすきがけコース 大中小規模な一般病院と大学病院それぞれのメリットを生かしたハイブリッド研修	小児科重点コース 全国の先駆けである“伝統の新生児医療”を含め高度な小児科医療を学ぶ	産婦人科重点コース 女性のためのプライマリケア能力の基盤養成と高度な産科婦人科医療を学ぶ
---	--	--	--

協力病院との強力なネットワーク

「たすきがけコース」など、将来のビジョンが定まっている人も、そうでない人も、多彩な病院の中から適した研修先を選ぶことができます。

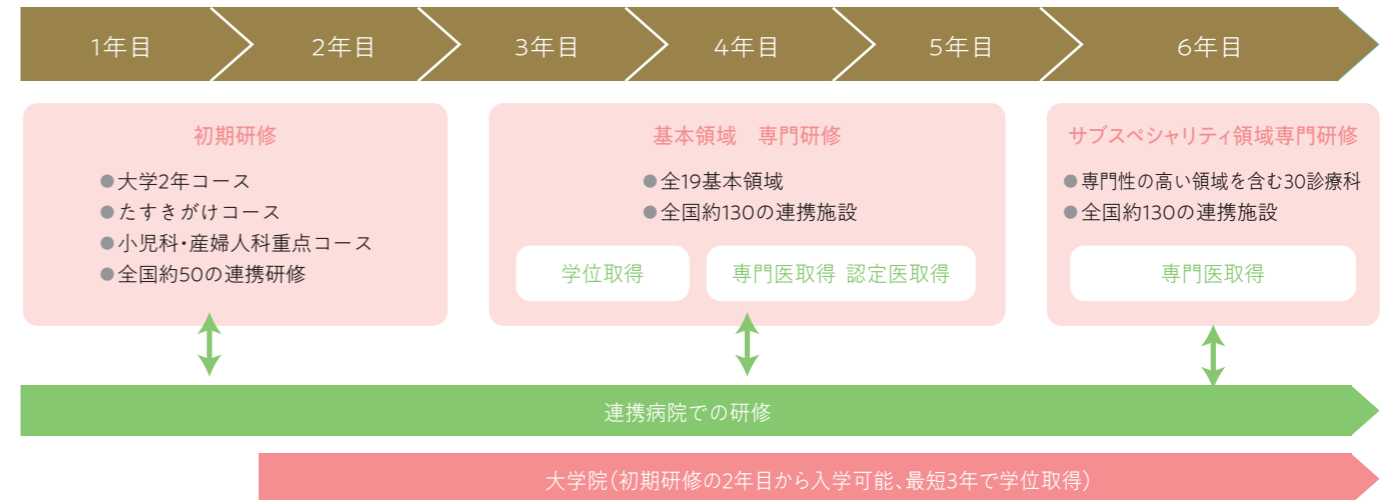
- 全国約50の施設
- 一般病院で最長1年
- 複数の病院を経験
- 自由度の高いローテート



名古屋の医療を支える最大の病院群

西部医療センター 成育・がん治療 小児・周産期 消化器腫瘍 呼吸器腫瘍 脊椎 放射線診療 陽子線	名古屋市立大学病院 治し支える医療 二次救急医療 地域包括ケア 機能回復医療 予防医学・健康増進	東部医療センター 長寿医療 先進リハビリ 脳神経 心身機能回復維持 アンチエイジング	みどり市民病院 救急医療 心臓血管 脳血管 消化器内視鏡 内視鏡下手術
--	--	--	---

長きにわたりキャリアパスをサポート



事例案

内科専攻研修

初期研修	1年次	総合診療科・総合内科	救急科・救急診療	外科	小児科	地域	精神科	産婦人科
	2年次	消化器内科	循環器内科	呼吸器内科	脳神経内科			
後期研修	3年次	内分泌・糖尿病	腎臓内科	血液内科	膠原病内科			
	4年次	連携病院			サブスペシャリティ			
	5年次	サブスペシャリティ						

内科専門医：卒業6年目に受験
内科サブスペ専門医：卒業7-8年目に受験

初期研修1年次に必修を可能な限り取得。2年次以降内科全般を学び、総合内科専門医取得に努める。サブスペシャリティ専門医を取得後、大学院研究等に進むこともできる。

外科専攻研修

初期研修	1年次	救急科・救急診療	総合内科	消化器内科	呼吸器内科	血液内科	循環器内科	麻酔科	小児科	精神科	産婦人科
	2年次	地域	乳腺外科	心臓血管外科	小児外科	呼吸器外科	消化器外科				
後期研修	3年次	内分泌・糖尿病									
	4年次	連携病院									
	5年次	サブスペシャリティ					サブスペシャリティ				

初期研修1年次に必修を可能な限り取得。2年次から外科を広くローテーションし、サブスペシャリティを早期に開始し、外科専門医を最短で取得することを目指す。

Voice



産科婦人科学
教授
杉浦 真弓

生涯医師として仕事を継続する強い意志と情熱を。

流産や死産を繰り返してお子さんが得られない不育症の原因を25年間研究しています。抗リン脂質抗体症候群、夫婦の染色体転座、子宮奇形などの原因に加えて、胎児染色体数異常が原因となることを世界に先駆けて発表しました。

昨今の若手医師は研究志向がなく専門医取得に熱心です。短期間に簡単に取得できる専門医に満足して専門領域をやめてしまう医師も散見されます。特に女性は育児のために第一線を退くことがあります。医学教育には多額の税金と指導医の時間と熱意が投入されており、年間医師数にも制限があります。誰かを押しつけて入学したのに育児のためにやめるのは私の自由、ではないはず。医師を目指した女性に育児を押し付ける配偶者を選ばないことも大切です。仕事なのだから楽

しいことばかりのはずがありません。生涯医師として仕事を継続する強い意志と情熱を持った人に医学部を目指してほしいと心から願います。

人生は意外と長い。専門医を取得して終了ではありません。ライフワークと呼べる研究や専門領域に誰もが出会えるわけではないでしょう。困難を乗り越えて得られるものがきっとあります。何度流産しても妊娠を目指す不育症患者さんのように。



環境労働衛生学
教授
上島 通浩

研究を通して世界にはばたく夢を。

皆さんは、「医師」としての将来に何をイメージしますか？医学部卒業後の進路には、病院で白衣を着て診療する臨床医に加え、基礎医学や社会医学への道の選択肢があります。基礎医学は、ヒトという「自然」の神秘に生命科学のアプローチで迫ります。また、社会医学は、健康で安心・安全な生活を、社会や集団の中で実現する医学です。名古屋市には、臨床、基礎、社会医学ともに、皆さんの未来が大きく広がる環境が整っています。ぜひ世界的な視野を持ち大きく羽ばたいてください。

地域医療への固い使命感をもって「地域枠」を選ぶ方を除き、進路を急いで決める必要はありません。臨床医学を学び将来進む診療科を考える前に、基礎・社会医学の教室で研究に触れる機会があります。そこでさらに深く興味が湧けば、大学院の研究指導を前倒して行うMD-PhDコースも用意されています。様々なことに是非チャ

レンジして下さい。

私は、社会医学の中の「生を衛(まも)る学問」、衛生学を専門とする医師です。環境が健康に与える影響を研究し、その予防のための社会の意思決定に関与しています。個人だけでなく国全体や世界の人々の健康を守る、やりがいのある仕事です。社会医学には研究以外にも、国の施策立案、地域住民や企業従業員の健康維持、死因の究明…など、幅広い活躍の場があります。

世界を目標に医学・医療の発展に一生を捧げる夢を抱くあなた、一緒に学びませんか？

Voice



東部医療センター 眼科 教授
野崎実穂さん

私は、小学生の頃の怪我をきっかけに、医師を志しました。

名古屋市立大学医学部へ入学し、臨床実習で白内障手術に魅了され、さらに術後の患者さんが大変喜ぶ姿に感動して、眼科医となりました。

卒業後は、名古屋市立大学病院での研修を経て、アメリカへ2年間研究留学、現在も名古屋市立大学病院に在職中です。

医師という職業は、臨床で生まれた疑問を、研究によって解決できる点に魅力があると思っています。なかなか、医師が研究をするというイメージは湧かないかもしれませんが、名古屋市立大学医学部では学生の段階から研究に触れられる機会が

ありますので、ぜひ活用してほしいと思います。

今後も、「目の前の患者さんを治すことだけでなく、目の前にいない患者さんを治すことも大切」という先輩からの言葉を胸に、日々研究や教育に力を注いでいきたいと思っています。

高校生活では、悔いの残らないように、興味のあることには全力で取り組んでください！



博士課程3年
細胞生理学分野
[MD-PhD コース在籍]
杉浦有優さん

私は医学部を卒業後、臨床研修中に大学院入学し、研修修了後は泌尿器科に入局しました。現在は子育てをしながら基礎研究と臨床の仕事を続けています。

私が研究を始めたのは大学3年生の研究室配属のときです。その期間におこなった膀胱平滑筋に関する研究を論文として世界に発表できたことに大変興奮し、MD.Ph.Dコースに所属して研究を続けることにしました。はじめはあまり膀胱には興味がなかったのですが、気づけば泌尿器科医になっていました。

泌尿器科では女性医師が少ないので、女性の患者さんから喜んで頂けることが多くやりがいを感じています。また、実際に

困っている患者さんに接することが研究のモチベーションになっています。これからは研究してきたことを活かし、排尿障害の治療に携わっていきたいです。

皆さんが今どんな医師を目指せばいいか迷っていても、この大学で様々な経験をするうちに自分の進みたい道がみえてくると思います。ぜひ名古屋市立大学医学部で自分の生きる道を見つけてください。



開業医
[あおきクリニック]院長
青木 茂さん

平成4年に本学を卒業し第1内科に入局、複数の病院で勤務したのち、平成20年に開業しました。その間に名古屋市立大学に研究医として戻り、博士号を取得しました。

医師になると決意したのは、胃癌による親戚の死がきっかけでした。それまでも漠然と「医師になりたい」という思いはあったものの、身近な親戚の末期癌を目の当たりにしたことで、医者になり患者を助けたいという意思が明確になりました。卒業後は胃癌や大腸癌の早期発見、早期治療を目指し内科医として内視鏡の技術を磨き、現在は自分のクリニックで内視鏡検査に日々力を注ぎ、癌の早期発見に努力しています。

医者になるためには膨大な知識や経験が必要であり、大変なこともあります。医者として働き、患者さんに感謝されたときはとてもやりがいを感じることができます。今後も地域に密着した医療を提供していきたいと思っています。

医師を目指す皆さんには、ぜひ一度、医者として何をやりたいのか自分に問いかけてみてほしいと思います。

研究者への道・MD-PhD コース

良医の育成ー卒前・卒後教育における研究の重要性ー

医師は科学者です！ 医師は、日常診療の中で無意識に科学的な考え方で患者さんと向き合っています。問診で症状を聞き、科学者として原因やその病態を頭で考えています。そして、血液検査やCT検査等により正しく科学的に診断し、安全が保証された治療へと繋げています。

医師の責務は、目の前の患者さんを治療することに加え、科学者として病気に苦しむ患者に対する新しい治療の開発も重要であることを、忘れてほしくないと考えています。“良医”の育成を目指す名古屋市立大学医学部は、「科学者としての医師」および「臨床医としての医師」を育成する卒前・卒後教育システムを充実させています。

医学部3年の約3ヶ月は、全ての学生が基礎自主研修に参加し、医学研究に携わります。希望者はMD-PhDコースに参加し、早い段階から医学研究者としての仲間入りをしています。また多くの卒業生は、初期研修／後期研修が修了する頃には大学院博士課程に入学し、科学者としての能力に磨きをかけています。

「科学者としての医師」および「臨床医としての医師」としての能力が備わった医師こそが本当の「良医」だと、我々は考えています。

MD-PhD コース

● 設立趣旨

「MD-PhDコース」は医学研究を志向する医学部学生に対し、早期に研究の機会を与えることによって、医学・医療の急速な進歩と社会情勢の変化に対応できる若手医学研究者を養成することを目的として平成20年度(2008年)に設立されました。

● コース概要

このコースは、医学部期間の前期コースと、大学院期間の後期コースの二つのコースで構成されます。このコースを希望する学生は、学部の4年次9月末までに前期コースに入り、希望する基礎医学分野で研究に従事します。また6年次にそれまでの研究成果を英語原著論文などの著者として公表し、審査会で前期修了の審査を受けます。これまでに約80名が前期コースに所属しました。

医学部卒業後は、名古屋市立大学病院を主とした臨床研修プログラムで初期研修を実施しながら、臨床研修2年目から後期コースへ入学することもできます。後期コースでは卒業8年目までに基礎医学分野又は臨床医学分野の大学院に入って研究を続け、博士課程3年次に研究成果を学位論文にまとめ、所定の審査を受け合格した場合には、4年間の修業年限を待たず、早期修了し学位を得ることも可能です。



川久保奨学金

● 奨学金制度

MD-PhDコースの学生は「川久保学生奨学金」を申請することができます。

● 川久保学生奨学金について

川久保己代子様からのご寄付によって、「医学研究者の人材育成に役立つ」ことを目的に本奨学金が創設され、以下に該当するMD-PhDコースの学生を対象に支援しています。

- MD-PhD前期コースに所属する医学部学生15名に対し、毎年、研究支援を目的として10万円を授与します。
- MD-PhD後期コースに所属する医学研究科博士課程大学院生で、基礎医学系分野を選択する者のうち、本学にて同分野の研究に専念する者2名に対し入学金及び3年間分の授業料と同額の奨学金を授与します。特に、基礎医学系分野の研究を志す学生にとっては、大変恵まれた支援制度です。将来、医学研究を担う人材が川久保学生奨学生の中から多く育つことが期待されております。

大学院博士課程

● アドミッション・ポリシー

名古屋市立大学は、「全ての市民が誇りに思う・愛着の持てる大学をめざす」ことを大学の基本的理念として掲げ、大学院教育では、大学院生への研究指導は研究活動の活性化の一環であるとの認識に基づき、高度な専門性と学際的視点を備えた研究者及び職業人を育成することを目標としている。

本大学院では、これらの理念や目標のもとに、基本的な専門知識と技術を持ち、高度な専門性と国内外で活躍する意欲と適性を備えた、多様な能力や経歴を有する人材を広く求めている。

● 教育研究上の目的

- 高度な専門教育および研究指導により、医学研究および医学教育を担う人材を育成する。
- 人類の未来に貢献する医学研究を行い、その成果を社会に還元する。
- 名古屋都市圏の中核医療機関として、地域住民の健康と福祉を増進する。

● 人材養成に関する目的

博士課程では、独創的な研究を行う最先端の医学研究者、先端的な医療知識・技術を有した臨床医、さらにはそれらの知識・技術に基づき、医学教育を担い得る人材の養成を目的とする。

● 人材養成に関する目的

- 将来の医学研究をリードする国際的医学研究者を志す人
- 高度最先端医療を創出し、実施する医療人を志す人

● 修得しておくべき知識の内容・水準

欧文論文読解と作成のための英語能力に加えて、医学・医科生命科学研究遂行に必要な理系大学学部、あるいは大学院修士課程修了レベルの生命科学・基礎医学知識を有すること。または高度最先端医療の実践を目指しうる基礎的医療技術と知識・経験を有すること。

● 概要

医学研究科博士課程は、基礎医学、臨床医学の枠を超えた横断的な生体機能・構造医学、生体情報・機能制御医学、生体防御・総合医学、予防・社会医学の4専攻から構成されています。基礎医学研究者と臨床研究者とが自由に最先端の医学研究を共同で実施できる体制を組織して大学院生の教育にあたり、独創的かつ応用範囲の広い医学研究者及び高度の医療知識と技量を備えた医師を養成することを目的としています。分子医学研究所は遺伝子制御学、分子神経生物学、細胞分子生物学、分子毒性学、再生医学の5部門で構成され、高度な研究を行っています。

RESEARCH CONTENTS CLASSIFIED BY SPECIAL FIELDS OF STUDY 研究分野一覧

分野名・教授名	研究内容
統合解剖学 植木孝俊教授	(1)防萎縮性側索硬化症(ALS)を初めとする神経変性疾患の病態生理に、ニューロン・グリア相関の破綻が与える分子原理を解明する。 (2)神経免疫系の恒常性維持の分子神経生物学的研究と、その維持機構の障害が、自閉症等の発達障害を惹起する分子病理の解明。
機能組織学 鶴川真也教授	感覚器と脳の両方面でシームレスな研究を展開 (1)聴覚・味覚受容に関する遺伝子の同定と遺伝子改変動物を用いた機能解析 (2)成体脳海馬の新生神経に関する形態学的・分子生物学的・生理学的 (3)脳室周囲器官に発現する血清ナトリウムイオンセンサーの同定
神経生化学 (未定)	(未定)
細胞生化学 加藤洋一教授	繊維は細胞外に突出したアンテナ状の細胞小器官で、様々な疾患との関わりが知られている。我々の研究室では以下の研究テーマに焦点を当てている。 (1)繊維形成の制御機序の解明 (2)繊維によるシグナル伝達の制御機序の解明 (3)繊維病の病態機序の解明 (4)様々な疾患における繊維の役割の解明(悪性腫瘍、不育症など)
細胞生理学 橋谷 光教授	平滑筋およびその周辺細胞に関する機能的、形態学的研究 (1)平滑筋自発活動の発生伝播機構 (2)平滑筋機能の神経性、液性制御機構 (3)内臓組織における微小血管の機能特性 主要実験方法:電気生理学的手法、細胞内カルシウムイメージング法および蛍光免疫染色法
脳神経生理学 飛田秀樹教授	神経科学&神経生理学的手法を駆使し、病態生理学的な視点のアプローチから3つのプロジェクトの研究を実施し、脳神経系の生理機能の解明にアプローチしている。 (1)リハビリテーションによる脳内出血後の前肢運動機能の回復メカニズムの解明 (2)胎仔白質損傷モデルへの幹細胞(ES細胞/iPS細胞)移植による機能回復のメカニズム解析 (3)うま味摂取により起動する腸-脳相関による情動形成メカニズムの解明
消化器外科学 瀧口修司教授	(1)臨床応用を目的とした消化器癌の増殖、浸潤、転移、血管新生に関する分子生物学的メカニズムの解明 (2)癌と炎症、栄養治療による炎症反応の修飾機構の解明 (3)内視鏡手術の手術術式の開発 (4)癌の免疫・化学療法 (5)周術期外科感染症
呼吸器・小児外科学 奥田 勝裕教授	肺癌や胸腺上皮性腫瘍などの胸部悪性腫瘍に対する外科的・分子標的治療に関する研究。 特に、胸部悪性腫瘍に対する低侵襲手術の臨床的および科学的有用性に焦点を当てた研究。
腎・泌尿器科学 安井孝周教授	尿路結石の分子機構の解明、内視鏡外科、前立腺がんの病態と骨転移機構、がん選択的温熱療法、男子不妊症の病態究明と補助生殖技術、宇宙医学(特に尿路結石と生腫)、泌尿器科手術術式の開発、泌尿器分子生物学、先天性疾患の発生機序、遺伝子診断法・治療法の開発、排尿メカニズムの解明、泌尿器疾患のエビデンス制御、ロボット工学、VR技術
心臓血管外科学 須田久雄教授	(1)3D printing技術・VR(Virtual Reality)技術を利用した手術シミュレーション・トレーニング法の開発 (2)医療関連機器開発を通じた社会実装(アumented reality)の研究 (3)抗動脈硬化・抗炎症作用を有する水素ガスの循環器疾患の治療への応用研究
乳腺外科学 遠山竜也教授	(1)乳癌のホルモン依存性増殖機構の解明に関する研究 (2)ホルモン療法効果予測因子に関する研究 (3)トリプルネガティブ乳癌に関する研究 (4)乳癌の予後予測因子に関する研究
小児泌尿器科学 林祐太郎教授	小児泌尿器科疾患の病態解明・診断・治療に関する基礎および臨床研究を展開 (1)腎・尿路系・腎発生、ES/iPS細胞を用いた腎再生、CAKUT発症メカニズム、水腎症、膀胱尿管逆流における組織・遺伝子変化 (2)性腺・性器系・性分化、精巣発生・精巣下降、精子形成、外生殖器形成に関する分子生物学的メカニズムの解明、精子幹細胞の分化・発生メカニズム、内分泌学的環境との相互作用 (3)総排泄腔遺残・外反などの稀少疾患や小児泌尿器悪性腫瘍の病態解明
視覚科学 安川 力教授	網膜硝子体疾患の病態解明の基礎研究、画像機器による診断・治療に関する臨床研究、AIの活用に関する研究 (1)加齢黄斑変性の病態解明(脂質代謝メカニズム・マクロファージ・肥満細胞の役割の解明) (2)眼科ドラッグデリバリーシステム(DDS)(眼内薬物徐放システム)の開発 (3)細胞シートを用いた再生医療 (4)マルチモーダルイメージングによる網膜静脈閉塞症の病態解明 (5)ナビゲーションシステムを使った糖尿病黄斑浮腫の局所レーザー治療 (6)眼科領域におけるAI支援画像機器の開発及びデータモニタリングシステムの開発
耳鼻咽喉・頭頸部外科学 岩崎真一教授	(1)感音難聴(DFN693などの遺伝性難聴、カルシウムチャンネル病、auditory neuropathyなど)の病態解明と内耳カルシウムイオンの調節機構に着目した新規治療の開発 (2)ウイルス性顔面神経麻痺のモデル動物を用いた顔面神経麻痺の分子機構の解明と新たな画像診断、ステロイドの効率的投与方法、安全な手術法の確立 (3)めまい・平衡障害に対する新たな診断機器の開発とメイス前庭電気刺激を利用した新規治療、新たな前庭リハビリテーションの開発 (4)頭頸部がんの免疫機構の解明と腫瘍溶解ウイルスによる新規治療の開発、生活習慣の罹患・予後への影響の解明 (5)発声障害の新たな客観的評価法の開発、寝静発声障害の病態解明と新たな喉頭形成術による治療の開発
加齢・環境皮膚科学 森田明理教授	(1)難治性皮膚疾患に対する光線療法の機序解析と開発 (2)樹状細胞によるアレルギー疾患・自己免疫疾患・悪性腫瘍の治療 (3)環境因子(タバコと紫外線)による皮膚老化の機序解析 (4)皮膚免疫制御による末梢性トランスジェネレーションの誘導
口腔外科学 渋谷恭之教授	(1)顎骨再生に関する基礎的・臨床的研究 (2)口腔前庭病変の治療に関する基礎的・臨床的研究 (3)インプラントによる治療法の開発 (4)顎骨再建と口腔機能回復に関する基礎的・臨床的研究 (5)口腔ケアに関する研究
形成外科学 鳥山和宏教授	(1)白斑に対する培養表皮移植 (2)脂肪(幹)細胞による軟部組織再建 (3)リンパ浮腫とリンパ管再生
実験病態病理学 高橋 智教授	(1)前立腺癌化学予防に関する実験病理学的研究 (2)前立腺癌、乳癌、婦人科腫瘍、消化器疾患の発育・進展に関わる臨床病理学的解析 (3)ギャップ結合タンパクから見た実験的肝がん研究 (4)健康食品を含む環境物質の発癌修飾作用およびその分子生物学的機構解明に関する研究 (5)ヒト疾患モデル動物を用いた実験的腫瘍病理
臨床病態病理学 福垣 宏教授	病理診断は「最終診断」としてしばしば患者治療に決定的な影響を及ぼすが、われわれの教室では診断(人体)病理学に研究の基盤を置く。造血器、消化器、呼吸器、軟部組織、唾液腺、胸腺などの腫瘍および反応性病変を主な研究対象とし、病態発生機序の分子レベルでの解明および新たな疾患単位・概念の確立をめざす。また診断、最適治療法の選択、予後推定などに重要な分子マーカーを同定する。
病態モデル医学 大石久史教授	ゲノム編集技術による遺伝子改変動物の作製と表現型解析を通じて、次のテーマに興味を持って研究を進めています。(1)細胞膜タンパクの再利用経路が個体の初期発生や分化に与える影響を明らかにする。(2)生後加齢に伴うホルモンやエピゲノムの変化を明らかにして、妊よう率の向上を目指す。
薬理学 大矢進教授	イオンチャンネルを免疫・炎症疾患、癌、骨疾患、循環器疾患の創薬標的分子として捉え、次のような研究を行っている。(1)免疫系・炎症性疾患における免疫細胞の機能変動とイオンチャンネル活性・発現制御 (2)がん悪性化・がん免疫とイオンチャンネル活性・発現制御 (3)骨関連疾患とイオンチャンネル活性・発現制御 (4)心臓のメカトランスダクションにおけるイオンチャンネル活性制御 (5)イオンチャンネル作用薬の開発
細菌学 長谷川忠男教授	A群レンサ球菌などの病原細菌の感染発症のメカニズム、細菌毒素蛋白質の機能・発現機構の解析、重症細菌感染症に対する新たな治療法の開発
免疫学 山崎小百合教授	(1)樹状細胞、制御性T細胞を利用した免疫系の特異的制御法の研究 (2)(1)を利用した細胞療法の開発 (3)免疫寛容解除を利用した癌や感染症への免疫誘導の研究 (4)新規分子標的免疫療法の開発
ウイルス学 奥野友介教授	(1)Epstein-Barrウイルス(EBV)関連がんの遺伝子解析と治療法開発 (2)慢性活動性EBウイルス感染症の原因解明 (3)新型コロナウイルス感染症の治療法開発 (4)希少疾患(小児がん、遺伝性造血不全症候群等)の原因解明と治療法開発
整形外科学 村上英樹教授	(1)腰部脊柱管狭窄症における黄色靭帯の変性メカニズム (2)高悪性軟部腫瘍に対する温熱放射線化学療法 (3)小児股関節疾患の病態 (4)人工神経による末梢神経の再生 (5)前十十字韧带(ACL)不全症、並びにACL再建後の動態 (6)関節リウマチ(RA)発症機序 (7)RAの薬物療法や手術療法による治療効果 (8)肩肘投球障害に関する基礎および臨床研究 (9)外傷性骨軟骨欠損に対する再生医療 (10)大腿骨頭壊死の病態解明とそれに基づく治療法の開発
精神・認知・行動医学 明智龍男教授	(1)気分障害・不安障害・心的外傷後ストレス障害・摂食障害・がん患者の認知行動療法・対人関係療法・デジタル技術を用いた治療開発研究 (2)気分障害・統合失調症の家族介入・家族心理教育開発研究 (3)発達障害・不登校児童・家族のQOL向上および介入方法の開発研究 (4)難治うつ病の治療最適化研究(mECT,TMSなど) (5)周産期を含めたコンサルテーション/エゾン精神医学・精神腫瘍学・緩和医療学・てんかん学・学生メンタルヘルス・地域精神保健領域の研究も実施
精神腫瘍学 (連携大学院) 内富庸介教授	(1)がん患者・市民参画による支持・緩和・心のケア開発 (2)がんサバイバーや進行がん患者のケアプランに関する研究 (3)共感的コミュニケーション研究・心理師・看護師・医師協働ケアに関する研究 (4)高齢者のQOLと総合機能評価に関する研究 (5)小児がん患者の家族支援に関する研究 (6)がん医療に従事する医療スタッフの教育システムの開発研究 (7)デジタルメンタルヘルスの実装科学研究 (8)ビッグデータを用いたがん対策研究など
脳神経外科学 間瀬光人教授	(1)虚血性脳血管障害の外科、脳損傷修復の分子機構、クモ膜下出血、水頭症、頭蓋内圧亢進の病態に関する分子生物学的研究 (2)頭蓋底外科、定位脳手術、脳血管内手術の最新手法開発 (3)パーキンソン病に対する外科療法の開発 (4)びまん性脳損傷の病態解析と治療法の開発 (5)幹細胞移植による神経機能回復法の開発 (6)手術支援画像技術の開発 (7)新しい機能的脳外科手術の開発導入

分野名・教授名	研究内容
リハビリテーション医学 植木美乃教授	(1)非侵襲的計測法を用いた運動・認知機能評価、ニューロリハビリテーションの開発 (2)股関節手術後の装着型サイボグを用いた新規リハビリテーションシステムの開発 (3)パーキンソン病関連疾患におけるclosed loop stimulationを用いた新規歩行リハビリテーション法の開発 (4)AIを用いたリハビリテーション効果の予測・最適化 (5)神経難病のリハビリテーション現状における全国調査
産科婦人科学 杉浦真弓教授	不育症病態解明、着床前診断、出生前診断胎児治療、周産期医学、生殖免疫、生殖補助技術、生殖器腫瘍発生機序、遺伝カウンセリング、エコロジー&チルドレンパースコホート研究
新生児・小児医学 齋藤伸治教授	新生児中枢神経障害の成因解明と新しい治療法の開発、新しい新生児呼吸循環管理法、小児内分泌疾患の診断と治療、先天性心疾患の包括的管理、小児悪性腫瘍の診断と治療、小児肝疾患の発症機構、小児神経疾患の原因と病態解明、ゲノム医学を用いた小児疾患の病態解明、再生医療の小児医療への応用、発達障害の評価と介入方法の開発
認知症科学 齊藤貞志教授	認知症・アルツハイマー病および脳卒中の病態形成の分子機構の解明と予防・治療法の開発を目指して、病態モデルマウスを用いた生化学的・病理的・行動学的・薬理学的手法を中心に研究を展開している。特に、神経-グリア連関、脳-末梢連関および疾患連関に着目した細胞病態・分子機構の解明
グリア細胞生物学 (未定)	未定
神経発達症遺伝学 山川和弘教授	神経発達障害には、遺伝子の異常の寄与が大きいがこれまでの研究によって明らかになれ、多くの原因遺伝子が同定されている。我々のグループでは、発達障害や知的障害、更にはそれに合併するてんかんの発症に関わる複数の原因遺伝子の同定、更にはモデル動物の作成や、それを用いた発症機序の解明を進めてきた。現在、これらの知見に基づき、遺伝子治療法を含め、全く新規で真に有効な治療法を開発を目指し、日々研究を進めている。
神経毒性学 酒々井眞澄教授	(1)リスクアセスメント:ナノサイズ粒子の肺毒性に関する組織学的検証(悪性中皮腫、肺がん、肺胞上皮および胸膜過形成、炎症)、分子レベルでの機序解析(サイトカイン、関与遺伝子) (2)ドラッグデスカバリー:腫瘍選択性に優れた抗がん物質の分子設計およびインシリコ標的分子解析、構造性相関、機序解析(転写因子)、効果解析、神経軸索損傷治療薬探索 (3)アニマルモデル:ヒトへ外挿可能な発がん動物試験系の開発(大腸がん、膵がん)
神経発達・再生医学 澤本和延教授	中枢神経系の発生・再生のメカニズム解明と再生医療への応用をめざして、成体脳における神経幹細胞の増殖・分化と新生神経細胞の移動・成熟機構を中心に、齧歯類と霊長類、正常動物と疾患モデルを比較しながら研究する
認知機能病態学 (寄附講座) 野村 洋教授	記憶・学習や情動の神経メカニズムの解明。特にin vivo神経活動の測定や操作、神経回路の選択的な可視化による脳神経ネットワークの解析。記憶や情動の破綻が関わる神経疾患、精神疾患の病態解明、新規治療法・予防法の開発。
消化器・代謝内科学 片岡洋望教授	(1)消化器癌の新規診断、治療マーカーの探索 (2)消化管癌に対する光線力学診断法、治療法の開発 (3)炎症性腸疾患の新規薬物療法の開発 (4)IgG4関連疾患や自己免疫性膵炎に対する新規診断・治療法の開発 (5)悪性胆道や消化管狭窄に対する金属ステント治療法の確立と力学的観点を含む集学的検討 (6)非アルコール性脂肪肝炎治療法の開発 (7)肝発癌抑制のための治療法の開発 (8)ウイルス肝炎におけるウイルス・ヒトゲノム解析 (9)糖尿病・脂質異常症・肥満症・内分泌疾患の病因病態の解明と新規治療標的分子の探索
呼吸器・免疫アレルギー内科学 新実彰男教授	(1)慢性気道疾患(喘息、慢性咳嗽、COPD、慢性気道感染症)の疫学、疾患概念、遺伝子を含む病態解明、CT画像解析、診断、治療 (2)肺癌の分子病態、抗腫瘍感受性/反応性・多施設大規模試験 (3)呼吸器感染症(非結核性抗酸菌症、肺炎など)の疫学、病態、CT画像解析、診断、治療 (4)間質性肺疾患の病態・画像解析と治療 (5)呼吸器症状(特に咳)と胃食道逆流症の関連 (6)各種膠原病の新規自己抗原分子の同定、臨床検体を用いた病態解析・診断・治療法の開発
循環器内科学 瀬尾由広教授	(1)早期心不全診断アルゴリズムと治療法の開発 (2)慢性心不全診療に関する名古屋モデルの開発 (3)4次元スペクトラックング心エコー法の開発 (4)急性心不全における急性腎障害に関する研究 (5)心疾患における腎内循環画像化システムの開発 (6)心臓アミロイドーシスの全国調査と新たな診断法の開発 (7)心筋の組織性状評価法の開発と心臓自動治療への応用 (8)心房機能と心不全に関する研究 (9)冠動脈疾患に関する脂質異常ならびに糖尿病に関する研究 (10)心血管連関における中心動脈圧の意義に関する研究
腎臓内科 濱野高行教授	(1)慢性腎臓病に伴う合併症、特に腎性貧血、骨ミネラル代謝異常に関する研究、(2)腎臓のサイズに着目した糖尿病性腎臓病とうっ血腎の研究、(3)急性腎障害に関する研究、(4)心腎連関の病態解明に関する研究
神経内科学 松川剛之哉教授	(1)脳血管障害、神経難病疾患の臨床的病態研究 (2)神経変性疾患のモデル動物作成法の開発 (3)神経難病の遺伝子治療法の開発 (4)記憶と想起のメカニズムの解明 (5)アルツハイマー病と血管性痴呆における分子生物学的発症機序の解明と治療法の開発
地域医療教育学 (未定)	(未定)
麻酔科学・集中治療医学 祖父江和哉教授	(1)周術期の神経認知機能障害の機序解明、敗血症による中枢神経障害の発症機序解明と治療法の開発 (2)慢性疼痛発症機序の解明と治療法の開発 (3)口腔領域の慢性疼痛の機序解明と治療法の開発 (4)重症患者に対する栄養管理に関する基礎的研究 (5)麻酔・集中治療領域の臨床研究
放射線医学 橘渡昭雄教授	(1)種々の画像診断機器を駆使した先端の画像診断研究 (2)人工知能を応用した放射線医療の構築 (3)新たな画像下治療(Interventional radiology: IVR)法の開発 (4)陽子線治療を含む放射線治療の最適化と治療成績向上 (5)放射線生物学に基づく放射線生物学の探求
血液・腫瘍内科学 飯田真介教授	(1)造血器腫瘍を中心とした癌の分子病態解析、新規治療標的分子の同定、分子標的薬の効果と毒性を予測するバイオマーカー研究、薬剤耐性化機序の解明とその克服に関する研究 (2)抗体療法やキメラ抗原受容体導入T細胞(CAR-T)療法を中心とする新たながん免疫療法の開発研究 (3)がん薬物療法の臨床試験、臨床治験の計画・実施によるエビデンスの創出
臨床薬剤学 日比陽子教授	(1)抗がん剤治療を行う患者の副作用発現リスクの解析 (2)抗菌薬の血中濃度測定結果に基づく投与シミュレーションソフトの有効性評価 (3)泌尿器・腎臓疾患と薬物の関連についての解析と新規治療法の開発 (4)その他、薬物治療上の問題点をシーズとした臨床研究
先進急性期医療学 笹野 寛教授/服部友紀教授	(笹野寛教授)呼吸・循環連携(心拍・血流変動解析、呼吸性動性不整脈の生理)、臨床デバイスの開発(超音波ガイド下穿刺療法、酸素投与方法)、末梢静脈挿入型中心静脈カテーテル、医学シミュレーション教育 (服部友紀教授)敗血症における免疫異常と骨髄移植による免疫機能再生効果に関する研究、敗血症性ショック患者に対するPMX-DHP+HDFの治療効果
救命救急医療学 松嶋麻子教授	(1)高齢化社会における敗血症に関する臨床研究 (2)院内感染予防と対策に関する臨床研究 (3)重症外傷および救急搬送に関する臨床研究 (4)減災・医療に関する研究 (5)救急医療とヘルスケアアートに関する研究
環境労働衛生学 上島通浩教授	(1)環境化学物質のリスク評価(健康影響・作用機序・曝露量の解明)に関する研究 (2)小児環境保健疫学研究
公衆衛生学 鈴木貞夫教授	がんやメタボリックシンドロームなどの生活習慣病・健康・QOL・総死亡率に関連する要因(生活習慣、生育歴、心理社会的要因、遺伝子多型など、要因間の交互作用も含む)の種々の疫学研究による探索と評価、診断・検査法の評価と比較、臨床疫学、難病の記述疫学
法医学 青木 康博教授	DNA多型・法医学遺伝学、画像解析技術の法医学的・法医学人類学への応用
医学・医療教育学 高桑 修教授	(1)多施設参加型教育システムの開発 (2)効果的なFaculty developmentの開発 (3)新しい多職種連携教育の開発と有効性の評価
次世代医療開発学 神谷 武教授	(1)機能的消化管疾患の病態、疫学および新規治療法に関する研究 (2)臨床研究方法・教育論と治療評価法に関する研究 (3)内臓知覚に関する基礎的研究 (4)消化器・循環器疾患における大規模データベース研究 (5)心不全の病態解明と治療開発 (6)数値モデルやシミュレーションを活用した新興感染症に関する研究 (7)肺炎およびARDSの予防・治療に関する国際共同研究
臨床医療デザイン学 植木孝俊教授(兼務) 森田明理教授(兼務) 植木孝俊教授(兼務) 加藤大吾士准教授(兼務) 場 大准教授(兼務) 寺田隆哉助教(兼務)	(松本貴裕教授) ナノ材料(半導体・金属量子ドット)と近接場光(表面プラズモン光、エバネッセント光)との相互作用の研究およびそれを用いた局所光刺激技術の開発・ナノ材料を利用した同位体分離濃縮技術の研究と新薬創製への応用 (森田明理教授)光の波長ごとの特性を生かした医療機器の開発、医学・生物学・工学を結ぶ横連携研究(早期シーズ段階～臨床研究・薬事承認プロセス) (植木孝俊教授)機械学習の計算解剖学への応用による脳神経回路のコネクトーム研究と、その成果の精神神経疾患診療への適用・ビッグデータ解析によるCT、MRIなどの医療画像自動診断システムの構築に関する構造的・低侵襲手術支援ロボットの駆動系創出と最適化に関する医療工学 (加藤大吾士准教授)医療機器制御技術、最小侵襲手術ロボット、人体工学・生理学を重視した予防医学デバイス、臨床医学に根ざしたあたらししいパーソナル健康指標などのデザイン研究開発 (場 大准教授)センサネットワークを活用した人間の生体・行動情報の計測と伝送に関する研究・VR、AR、MRを活用した作業支援に関する研究 (寺田隆哉助教)生体医学工学・レーザー光技術応用・医療機器開発



名古屋市立大学には、文化系から運動系まで様々な活動を行っているクラブ・サークルがあります。その中には、様々な学部が所属する全学のクラブ・サークルだけでなく、医学部独自のものもあります。仲間とともに目標に向かって努力した時間は生涯にわたる貴重な財産となるはずで

文化系 CLUTURE CLUB

クラブ ●22団体

- オーケストラ部
- ギター・マンドリンクラブ
- 混声合唱部
- 軽音楽部
- 邦楽部
- アイセック名古屋市立大学委員会
- 申楽之能倶楽部
- 美術部
- ダンス部カリクレイン
- 写真部
- 救急救命サークルMeLSC
(名市大ライフサポートクラブ)
- 大衆文化研究会
- 演劇部
- 茶華道部
- 障害者問題研究会
- 文藝部
- 東洋医学研究会
- 手話部
- 蝶ヶ岳ボランティア診療班

- ストリートダンス部 HipHopCafe
- 名古屋市博物館サポーターMARO
- 生協学生委員会
- アカペラサークルAndante
- NCU FM!

同好会 ●18団体

運動系 ATHLETIC CLUB

クラブ ●28団体

- 硬式野球部
- 準硬式野球部
- 硬式テニス部
- ソフトテニス部
- バレーボール部
- バドミントン部
- バスケットボール部
- ラグビー部
- 卓球部
- 柔道部
- 水泳部
- スキー部
- サイクリング部
- 医学部ハンドボール部
- 空手道部
- ゴルフ部
- 医療系バレーボール部
- 剣道部
- 馬術部
- 弓道部
- ワンダーフォーゲル部
- 陸上競技部
- サッカー部
- ハンドボール部
- 医療看卓球部
- 日本拳法部
- 医学部サッカー部
- 医療系スノーボード部

同好会 ●11団体



●蝶ヶ岳ボランティア診療班

蝶ヶ岳ボランティア診療班は、毎年夏に、長野県の蝶ヶ岳山頂にある診療所で診療活動を行っています。学生は医療スタッフのサポートの下、医療面接やバイタルサイン測定、登山者に対する高山病の予防的介入などの啓発活動を行っています。また、毎週月曜日に診療活動に向けた勉強会を行っています。

MESSAGES

蝶ヶ岳ボランティア診療班の学生代表を務めている医学部3年の原田悠希です。蝶ヶ岳ボランティア診療班は名前の通り、蝶ヶ岳という長野県の北アルプスに位置する山に登って、その山頂にある診療所で医師や看護師をはじめとする医療スタッフのお手伝いをするという活動を行っており、活動期間は診療所が開所している7月中旬から8月下旬の約1か月半です。

診療所が開所していない期間は、夏の診療活動に向けて毎週月曜日に勉強会を行っています。勉強会には医学部・看護学部・薬学部などの医療系学部の学生が集まり、グループワークを交えて登山に関する知識や医療面接・バイタル測定といった実践を行っています。

ここまでの活動内容を聞くと部活のようなイメージを持つ人も多いと思いますが、勉強会は和気あいあいとした雰囲気で行われていきますし、休日にも様々なイベントがあります。先輩後輩そして同期の仲間も良く、一緒に山登りをしたり、休日にドライブに行ったり、毎週のようにご飯を食べに行ったりと、楽しく遊んでいます。

蝶ヶ岳ボランティア診療班は部活の性質上、登山をしますが、登山を大学に入ってから始めたという人がほとんどです。“社会貢献活動してみたい”“大学から新しいことを始めてみたい”“先輩後輩と仲良く遊びたい”という人におすすめの部活です。名古屋市立大学に入学したら、僕たちと一緒に大学生活を楽しみましょうか?皆さんをお待ちしております。



●救急救命サークルMeLSC

MeLSC(Meishidai Life Support Club)は「救急」をテーマに勉強会を開催しており、医学部が約100人、看護学部が約40人所属する非常に大きな部活です。勉強会は月2回の頻度で、BLS(一次救命処置)やFirst-Aid(応急処置)など一般市民でも行えるものを扱い、学生が講義・指導する形で多くの先輩方や同期、後輩達と交流しつつ楽しく学べます。

MESSAGES

こんにちは!
救急救命サークルMeLSCの代表を務めている医学部三年の田口拓海です。MeLSCはMeishidai Life Support Clubの略であり、名前にサークルと入っていますが、部員数が150名を超えるとても大きな部活です。部員の内訳としては、医学部と看護学部が主ではありますが、人文社会学部や薬学部、芸術工学部も所属しており、学部や将来の職種にこだわらずに和気あいあとした雰囲気の中、さまざまな手技を学んでいます!!

活動のひとつとして、WS(ワークショップ)と呼ばれる、一日もしくは二日間をかけて行われる勉強会があります。藤田医科大学・名古屋大学・愛知医科大学の救急を学んでいるサークルと合同で行われ、相互に行き来して教えあったりしており、他大学と深い繋がりを持つ部活となっています。

また、昨年度は名古屋市科学館において市民向けのBLS講習会を開催しました。大学の部活でありながら、活動が自分たちの中で完結していない部分はとても誇らしく思っています!!

みなさんとともに活動できたらとてもうれしいです!!
みなさんの入学、入部を心よりお待ちしております。

川澄祭

KAWASUMISAI

医学部・看護学部生による大学祭「川澄祭」は毎年11月上旬頃、桜山キャンパスで開催されます。50年以上の歴史を持つ川澄祭の企画・運営はすべて学生に任されており、そこへ注ぐ情熱の大きさは、医学部生・看護学部生が先輩から後輩へ受け継ぐ伝統の1つとなっています。



MESSAGES

実行委員長メッセージ

岡田 幸太郎 [第64回川澄祭実行委員長]

皆さんこんにちは!本年度川澄祭実行委員長の岡田幸太郎です。
川澄祭とは、名大病院のある桜山キャンパスで医学部と看護学部が共同で行う学祭です。学祭ならではのステージ企画やお化け屋敷、脱出ゲーム、模擬店などはもちろんのこと、医療系の学部ならではの模擬病院は全国でも最大規模であると自負しております。模擬病院では、手術体験や体力測定など様々なことができ、幅広い年代の方々に楽しんでいただけたと思います!
今年のテーマは「幸大夢遍」です。コロナの勢いも落ち着きをみせ、今までできなかったことができるようになり、多くの方の幸せや夢が広がればいいなという思いが込められています。たくさんの方のご協力のおかげで2年連続での開催に至りました。最大限楽しんでいただけるよう学生一同全力を尽くさせていただきます!ミニオープンキャンパスなどの学生向け企画も用意しており、名市大について知っていたいただける良い機会にもなると思いますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております!(本年度は10月28(土)、29(日)に一般公開されます。)

■ 内容盛りだくさん！医学部の一年間。



入学式



解剖感謝式



OSCE



オープンキャンパス



川澄祭



卒業式



■ オーストラリアニューサウスウェールズ大学選択制臨床実習



1949年設立のニューサウスウェールズ大学 (University of New South Wales・UNSW) は、シドニー郊外、ケンジントンに位置し、世界の250以上の大学とパートナーシップを結んでいるオーストラリアの公立大学です。120カ国以上から来た留学生を含め、約50,000人の学生が学んでいます。

UNSW医学部は、4つの附属病院をもち、優れた教育方法と革新的な研究で広く知られており、近代医学・健康科学に関する学生の知的探求心を刺激する多種多様な学びを精力的に提供しています。

名古屋市立大学医学部では、6年生における選択制臨床実習として毎年最大4名の学生を派遣しています。



海外留学体験記

[平成30年度留学] 鬼頭 拓末

1ヶ月間、UNSWのPrince of Wales Hospitalの感染症内科で実習させていただきました。実習を通じてよかったと思うことは大きくわけて3つありました。1つめは自分で考え自分から動く習慣が身についたことです。2つめは海外の医学生を実際にみることができたこと。1年のうちからBSLを行い、下級生でも高い臨床能力をもっていました。3つめとしては、留学を通じて自分の将来について見つめ直すきっかけを与えてもらうことができました。貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。

[平成30年度留学] 恒川 彩香

私はUNSWの関連病院の一つであるSt.George Hospitalの腫瘍内科にて4週間の臨床実習を行う機会を頂戴しました。腫瘍内科では主に抗がん剤治療を行います。末期癌の患者さんと医師が心を通わせ互いに信頼し合う様子が印象的でした。またUNSWの医学生と一緒に講義に参加し交流する事ができ、モチベーションも上がりました。この留学を通して学んだ多くの事を将来に活かしていけるよう、さらなる努力を積み重ねていきたいと思っています。貴重な経験をさせてくれたことを心より感謝申し上げます。

[平成30年度留学] 廣瀬 正明

実習の主な内容は、回診への同行、外来の見学、手術見学をする事でした。また、日本では出来ないようなユニークな経験もしました。私が実習した病院ではCardiothoracic Surgeryがとても強く、心臓移植に関しては世界的にも有名な病院で、この科の手術見学もさせて頂いたのですがその際に肺移植(DCD:心停止後移植)の臓器採りにも同行させて貰い、手洗いた上で手伝いをさせて頂きました。日本の医学生でここまで関わられた者は、ほとんどいないのではないのでしょうか。とても良い経験を出来たと感じております。



- 1943年 4月 名古屋市立女子高等医学専門学校開校
- 1948年 4月 名古屋女子医科大学開学
- 1949年 10月 名古屋市議会において名古屋女子医科大学と名古屋薬科大学を統合して、名古屋市立大学とする決議案
- 1950年 4月 名古屋市立大学設置(旧制医学部入学定員40名)
- 1951年 3月 名古屋市立女子高等医学専門学校閉校
- 1952年 4月 新制医学部医学科設置(入学定員40名)
- 1955年 4月 医学部進学課程設置に伴い、同課程および薬学部一般教育系列の教育を行う教養部を設置
- 1958年 9月 医学部を田辺通キャンパスから川澄キャンパスに移転
- 1959年 5月 旧制医学研究科に学位論文審査権付与
- 1960年 11月 医学部図書館を附属病院内から川澄キャンパスへ移転
- 1961年 3月 旧制医学部および同研究科廃止
- 1961年 4月 大学院医学研究科(博士課程)設置
- 1963年 4月 医学部医学科入学定員を60名に増員
- 1966年 11月 附属病院を改築、新病院(川澄キャンパス)にて診療開始
- 1975年 4月 医学部医学科入学定員を80名に増員
- 1975年 9月 医学部図書館・講堂完成
- 1977年 6月 基礎教育棟完成
- 1981年 5月 附属病院増築工事完成
- 1987年 4月 医学部分子医学研究所発足
- 1992年 12月 医学研究科実験動物研究教育センター完成
- 1996年 3月 医学研究科・医学部研究棟完成
- 2000年 4月 医学研究科の専攻を再編し、入学定員を27名から52名に増員
- 2002年 4月 大学院部局化
- 2004年 1月 附属病院の病棟・中央診療棟が稼働開始
- 2006年 4月 名古屋市立大学の独立行政法人化
- 2007年 5月 附属病院の外来診療棟が稼働開始
- 2008年 4月 医学研究科修士課程(入学定員10名)を設置
- 2009年 4月 医学部の入学定員を92名に増員
- 2010年 4月 医学部の入学定員を95名に増員
- 2012年 5月 附属病院の東棟(喜谷記念がん治療センター)稼働開始
- 2014年 8月 医療デザイン研究センターを設置
- 2014年 11月 不育症研究センターを設置
- 2015年 4月 医学部の入学定員を97名に増員
- 2015年 10月 医学研究科・医学部未来プランを策定
- 2017年 1月 先端医療技術イノベーションセンターを設置
- 2017年 4月 修士課程に臨床医療デザイン学分野を設置
- 2019年 10月 脳神経科学研究所を開設
- 2021年 4月 名古屋市立東部・西部医療センターを名古屋市立大学医学部附属病院化
- 2023年 4月 名古屋市立緑市民病院、名古屋市厚生院附属病院を名古屋市立大学医学部附属病院化